

THE
ULTIMATE
HOUSE

所在地：山梨県山中湖村
敷地面積：3,708.06㎡
延床面積：299.76㎡
設計：アール・エス・ピー・キテクト

上：ガレージ前のスペースでは、友人たちがバーベキューパーティーも。名車を眺めながら、クルマ談議に花が咲く。下：玄関を入ると、ガラスの向こうに名車たちのノーズがお目見え。

家のどこにいても眺められる

ガーデンクリニック最高顧問医師

大庭英信

Hidenobu Oba

1967年福岡県生まれ。東京慈恵会医科大学卒業。大塚美容外科、帝京大学溝野口病院等を経て'99年より日本・シンガポールでガーデンクリニックを運営。



に悶絶!

あらゆる角度から愛車の表情を
窺い知れる、クルマと住む家

深 い緑の中、現れたのは、まるで海外の美術館と見紛うばかりの豪華な邸宅。さらに長いアプローチには博物館級のクルマがずらり！

「クルマと一緒に住める家。それが子供の頃から夢だったんです」と教えてくれたのは、国内外で美容整形クリニックを経営するガーデンクリニック最高顧問医師の大庭英信氏だ。

ひと目でこの地を即決した、という理由もリビングを見れば納得だ。連なる窓の向こうには遮ることなく雄大な富士山がそびえ立ち、モダンなミノッティの家具を揃えた解放感あふれるリビングダイニング。富士山ビューの寝室やバスルームなど、邸宅の素晴らしさは書き尽くせないほどあるのだが、「僕はクルマが置ければそれだけで良かったんです(笑)」と大庭氏。1階に設えたガレージのほかガレージ棟も設置。ギャラリーのようにクルマを並べ、あらゆる角度から愛でることが出来る。

「朝起きて山中湖を一周、あるいは富士スカイラインで富士山を回る。古いクルマも多いので僕にとってこの周辺はドライブコースとしても最高なんです」子供時代、空地に乗り捨てられた軽トラに乗り、「ドキドキしながらハンドルを握って遊んで

いました」という大庭氏。「大人になったらクルマを10台持ちたい！」という夢は、現在45台を所有するまでに。とはいえ、彼はクルマを投機的な対象とは捉えていない。

「自分の好きなクルマを探して、とことんメンテナンスし、乗って楽しむだけ。だからあまり価値はないんです(笑)」

●●のフェラーリのP4(レブリカ)も、閉館したスポーツカー博物館で朽ち果てていたものを譲ってもらい、すべて修理本物のフェラーリのエンジンを載せて復活させた。

生年と同じ年式のキャデラック・エルドラド、ユーミンのアルバムジャケットにも描かれた1954年式コルベットや、映画「アメリカン・グラフィティ」と同じ白色に塗りがえたサンダーバード、映画「プリティ・ウーマン」のロータス・エスプリなど、彼が所有するクルマにはすべてにストーリーがある。

「クルマの原型がわからないくらいに改造は大嫌い。こういう生い立ちだからこのデザイン、このスペックなんだと、クルマのルーツを感じながら、あるべき姿に戻してあげるのが好きなんです」

それは仕事にも通じている。「きれいになりたいと言っても、



上：青空を屋根のシャープなラインが切り取る、大庭邸の外観。そのダイナミックさに圧倒。
下：玄関から門に続くアプローチ。水盤に映る逆さ富士は、訪れる人を喜ばせる。

The View of select

1. 部屋の窓や、玄関からもクルマが覗く

玄関からはガレージ内を、階段からはガレージ前に並ぶクルマを、室内に多用されたガラス窓から眺められる。

2. サーキットに出るにはうってつけの立地

発足したチームのドライバー関口雄飛氏もレース前に宿泊。レース後は、ガレージ前で仲間とBBQパーティも。

3. 富士山が随所に顔をだす設計

荘巻のリビングのほか、寝室のベッドからも富士山が「朝風呂で見る富士山は幸せな気分になります」(大庭氏)

夕暮れ時の芙蓉峰を独り占め。チラリと覗く逆さ富士も見事。

理想の形や思いはひとり一人まったく違います。患者さんがどんな気持ちで悩んできたか。その悩みの元を見つけ、患者さん本人の良さを活かすことが大切なんです」

自分がクルマによって得た喜びを分かち合いたい」と「一般社団法人日本乗物振興会」を設立。このクルマを開放し、老若男女問わず触って、乗って楽しめる機会も創出する。さらに今年には「ガーデンクリニックレーシングチーム」(G.C.R.T.)を発足。チームオーナー兼ドライバーとして、富士スピードウェイのインタープロトシリーズに参戦している。

「一瞬の迷いが許されない手術同様に、集中力が必要なレースは、メンタルトレーニングにもなっていると思います」

午前中はこの家で子どもと遊び、午後は富士スピードウェイでレース。そんなギャップも楽しいという大庭氏。大庭氏にとってレースと仕事の間に、自分のスイッチを切り替えられる場所、それがこの家なのだ。「患者さんに、『人生が変わりました』と言われることが嬉しいことはありません」

ガレージのクルマたちが喋れたら、きっと同じことを言うに違いない。



1 木や石など天然の素材を使用した、高い天井のリビング。窓枠が邪魔にならないよう、最大ガラスを探したそう。2 ベッドルームからの眺望。目が覚めたら、そこに富士山がある贅沢。3 広いジャグジーに身を横たえて見えるのは、絵画のように切り取られた絶景。4 リビング前のテラスから、愛車がギャラリーのように並ぶアプローチを臨む。冬は-20℃近くにもなる山中湖。雪の日は、手前の芝生のスロープが子供たちのそり遊びの場所に。5 数あるクルマの中で、一番のお気に入りはこのルノー・アルピーヌV6ターボ。「派手なクルマではないので、『意外だ』と言われる(笑)でも、乗った感じがしっくりくる。僕には一番相性がいいクルマです。6 オーナーである『ガーデンクリニックレーシングチーム (G.C.R.T.)』ではドライバーとしても参戦。8月の富士スピードウェイでのレースでは4位に。将来はル・マンを目指す。